



部員たちが牛を引いて審査に臨んだ

3年後の全共へ手応え

全国和牛能力共進会(全共)への出場を目指す大曲農業高校畜産部が1日、昨秋に導入した雌2頭を地元の大仙・仙北・美郷畜産共進会に初出品した。2頭とも高く評価さ

れ、8月25日に由利本荘市で開かれる県和牛改良共進会への推薦を得た。2頭は2027年の全共に出品する牛の母親候補で、部員15人は手応えをつかんだ。

大曲農高畜産部の和牛

地元共進会で高評価

全共は5年に1度開かれる国内最大の和牛品評会。大曲農高畜産部は次回27年の北海道大会を目指す。県や地元市町、JAなど県内16団体で構成するプロジェクトチームが後押ししている。

昨秋に導入した2頭は、大仙市神宮寺の県畜産試験場で飼育。部員たちは週2回試験場に通い、調教法を学びながら世話してきた。

今秋はさらに雌2頭を導入予定。計4頭の雌が26年に産んだ子牛の中から優秀な1頭を選び、全共へ出す計画だ。

1日の大仙・仙北・美郷畜産共進会は畜産試験場近くのさくら公園で開催。部員たちは田圃を組んで気合を入れた、牛の綱を引いて審査に臨んだ。

第1部第2類(肉用牛)雌、23年3月26日～6月25日生まれ)部に1頭、第1部第3類(同、22年12月26日～23年3月25日生まれ)にもう1頭を出品。どちらも、それぞれ部門で「優等賞」に次ぐ「二等賞」に選ばれた。

戸村晴琉部長(3年)は「最初は何もできなかった部員たちがレベルアップし、堂々と牛を引いて審査を受けられるようになった。全共に出す牛の親候補が評価されたので、3年後に期待が持てる」と語った。

(佐藤拓)